

你這小東西

犬追物之後
曾在戰場上
多次妨礙我

實在了不得

想必是知名
武士的兒子吧

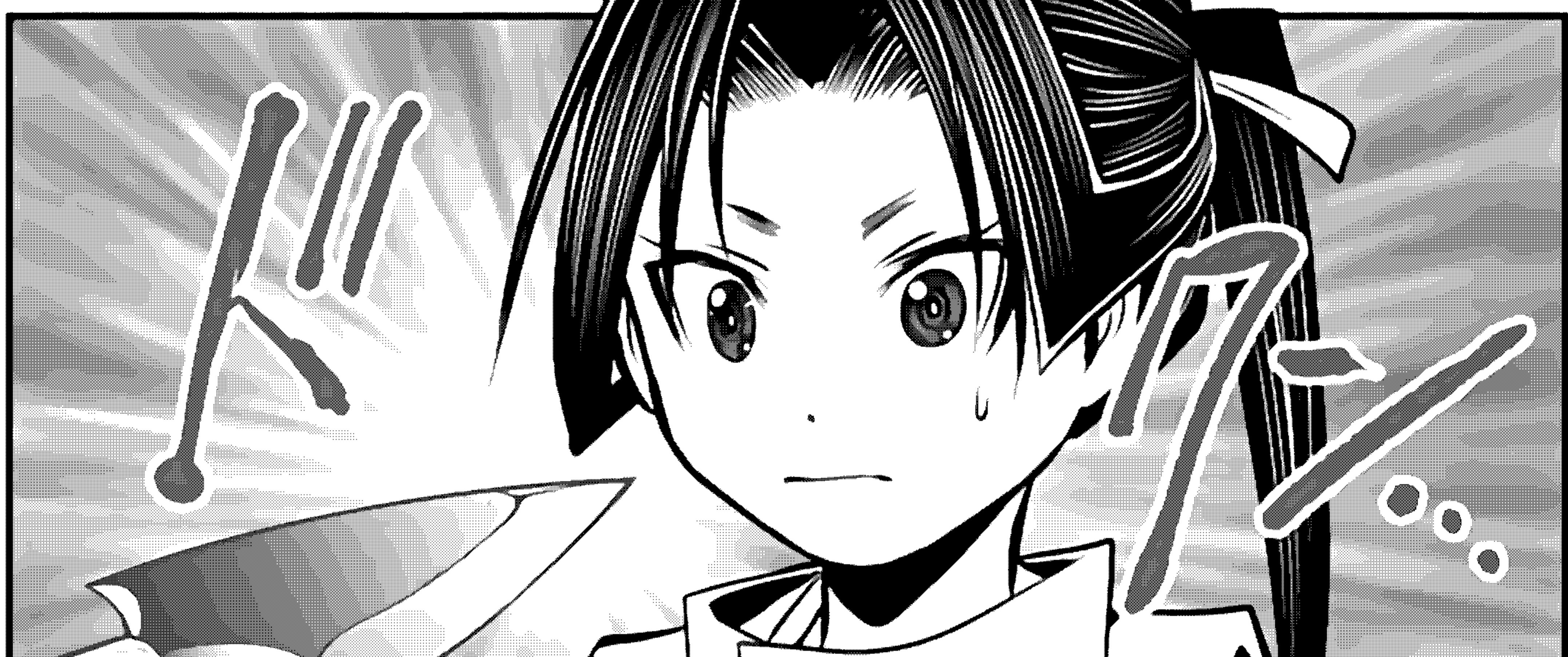
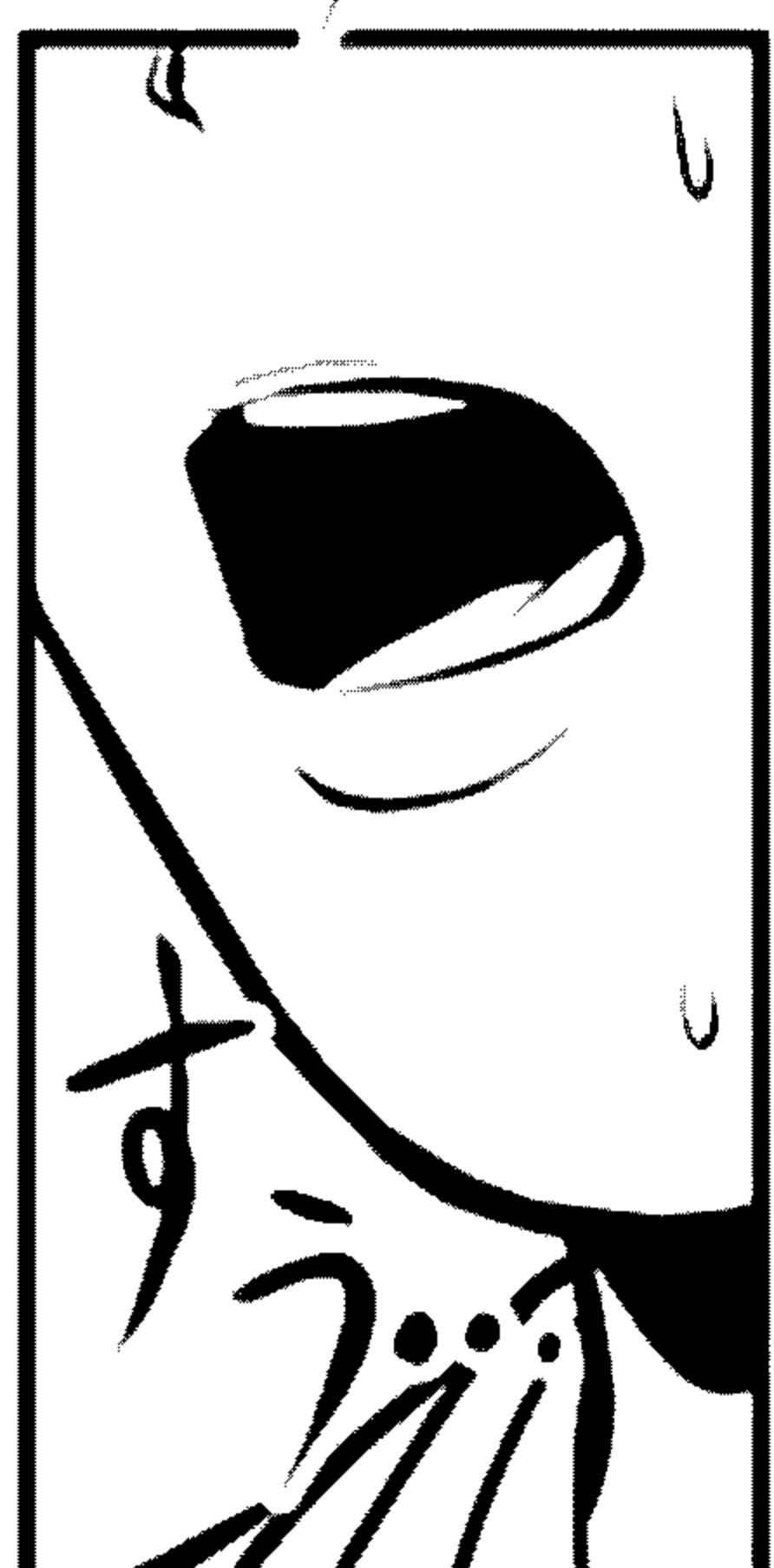
@ 漫威傳奇

翻譯

我不做人了

權當
置身戰場

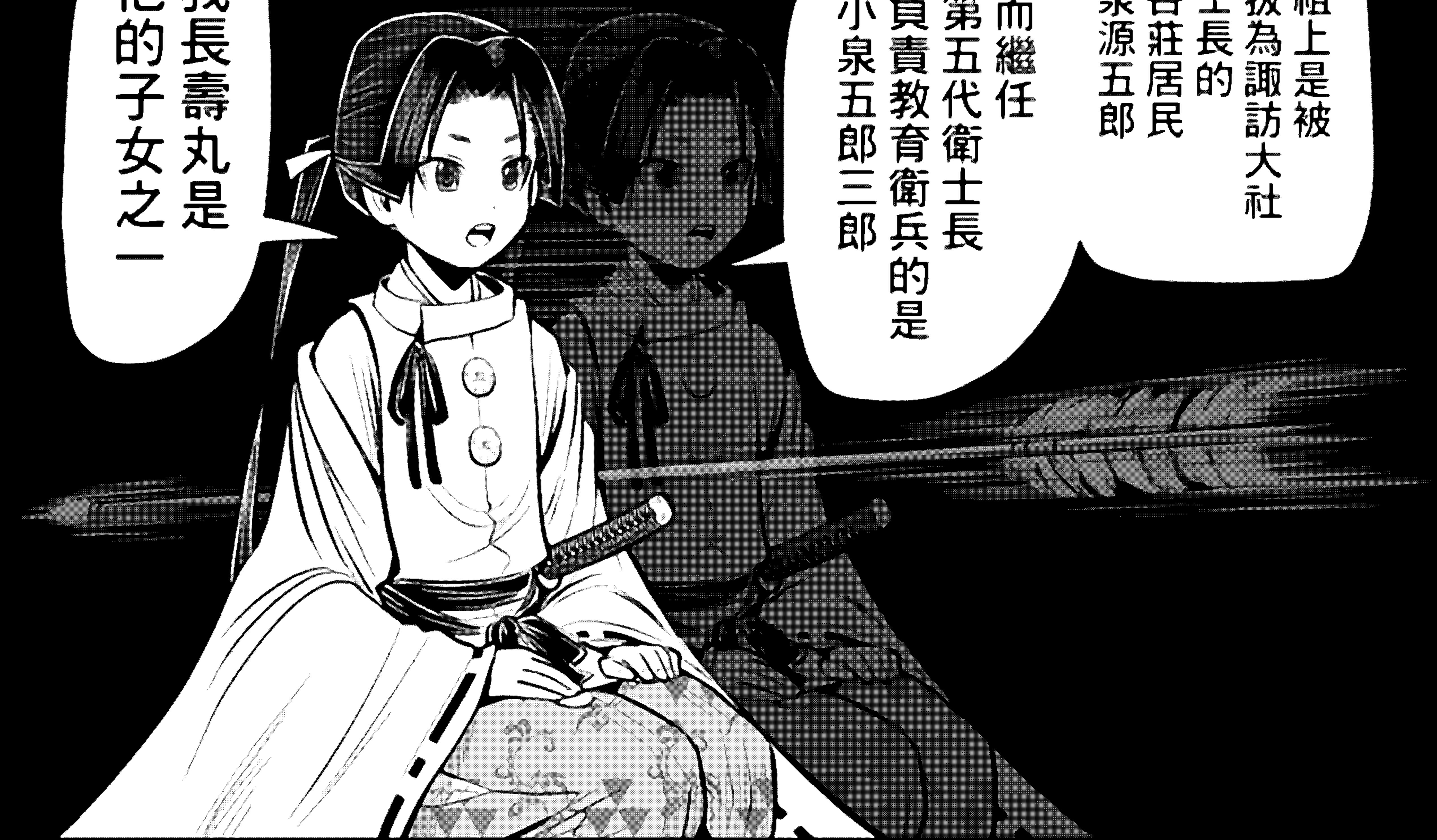
那就快點
自報家門



我祖上是被
提拔為諭訪大社
衛士長的
岡谷莊居民
小泉源五郎

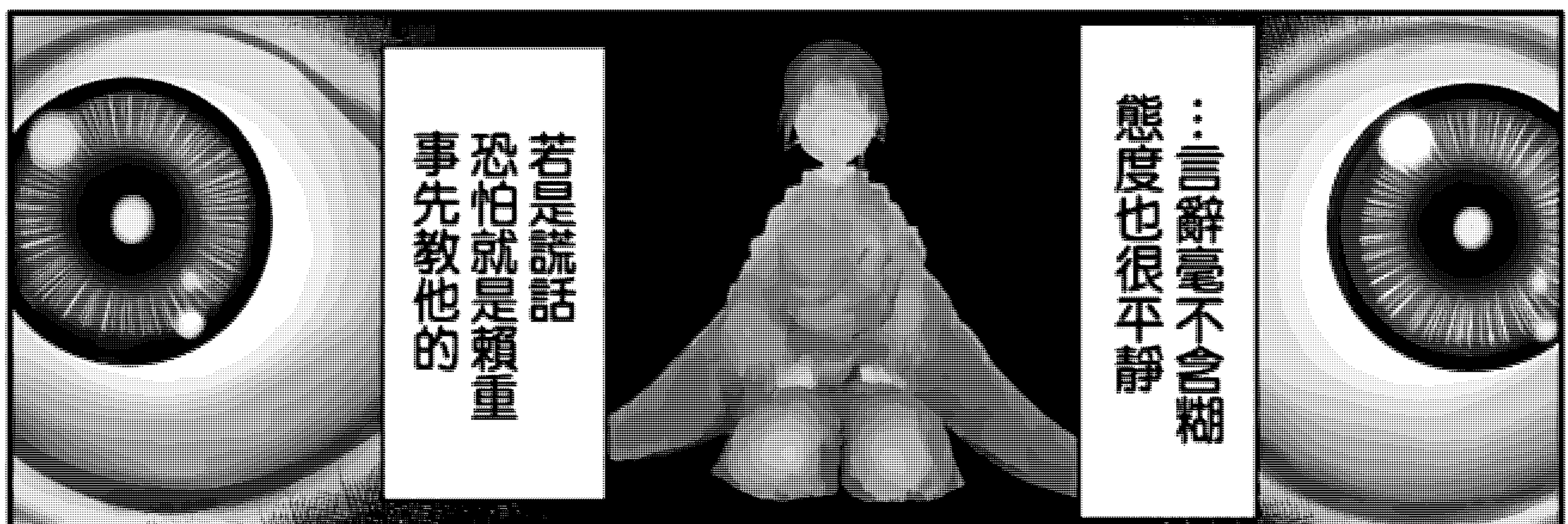
而繼任
第五代衛士長
負責教育衛兵的是
小泉五郎三郎

我長壽丸是
他的子女之一



若是謠話
恐怕就是頼重
事先教他的

一言辭毫不含糊
態度也很平靜



怪在
但怪就

你雙親
去年因失火
而喪生的實情
我已有所了解

也知道
他們有兒子



有領民證言
那家的孩子

也一同
葬身火海
了啊？

這是因為……

抱歉了
小泉殿下
素未謀面的

我要將
您的意外之死
當作盾牌

或許有人以為
我們全家都
無人生還吧

畢竟火勢浩大
家人必然
屍骨無存……

羞愧難當
逃進諭訪大社
後來再也
不曾回家

我拋下雙親
一個人逃出了
燃燒的宅邸

：還有

更奇怪的事

那些

侍奉你的
郎黨

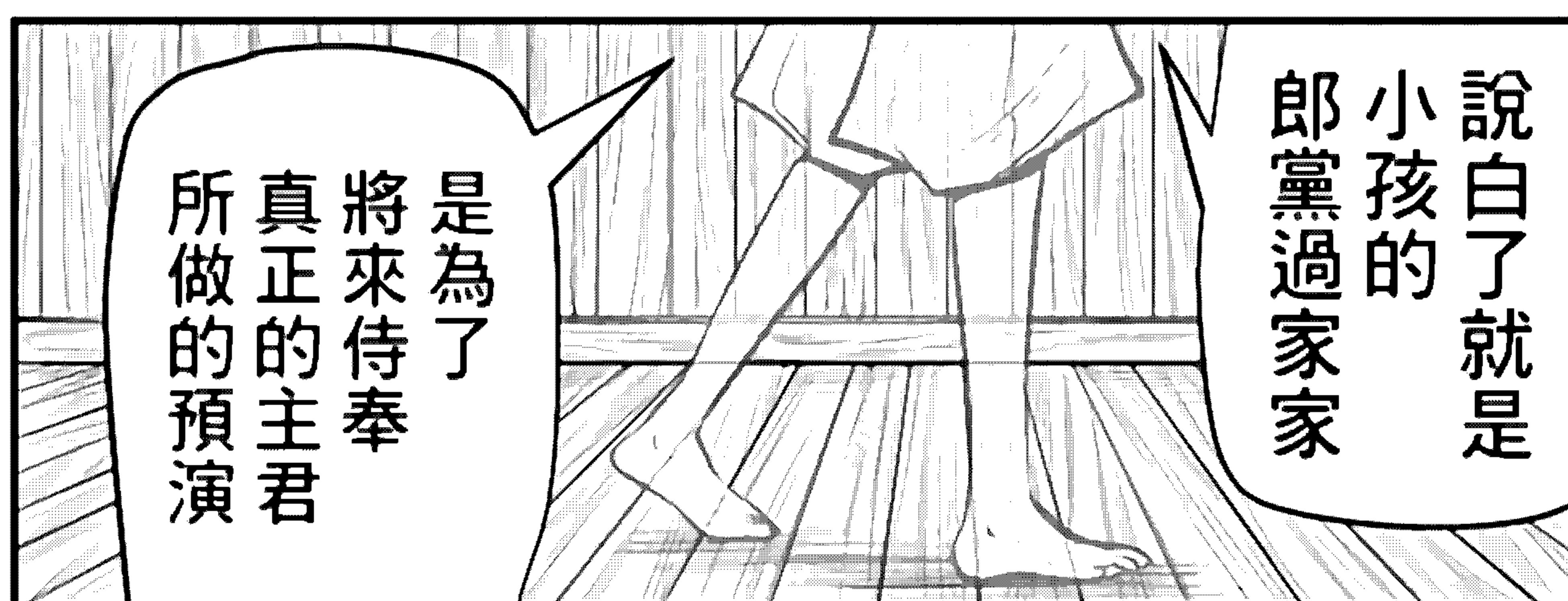
吉九郎 滾
永政 勇正
源平 雅大
氏春

等候在外的
那位亞也子是
望月氏的庶子

據我了解
叫弧次郎的是
禰津氏一族

兩人都
是信濃歷史悠久的
名門出身

成為區區
衛士之子的
沒理由
部下吧？

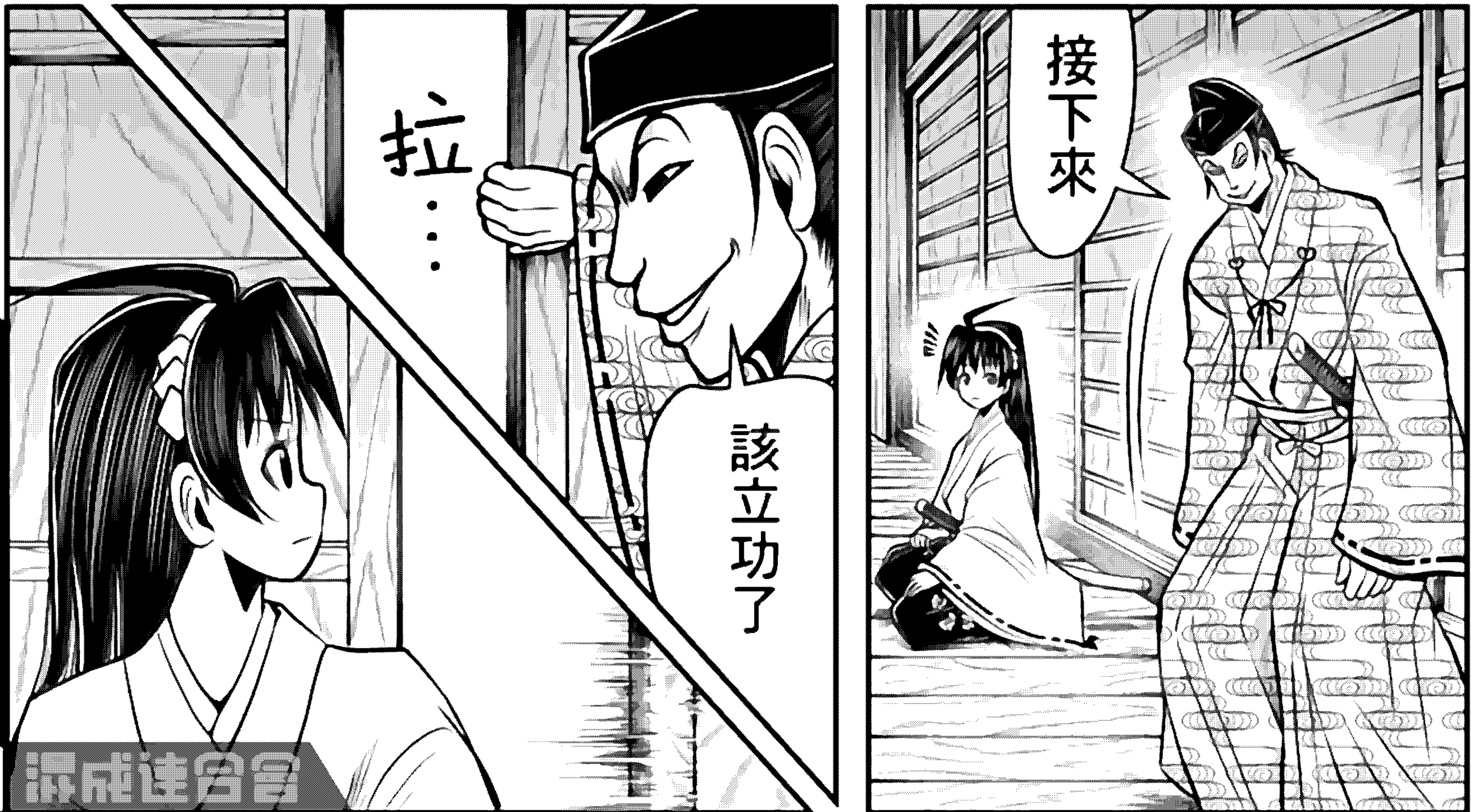


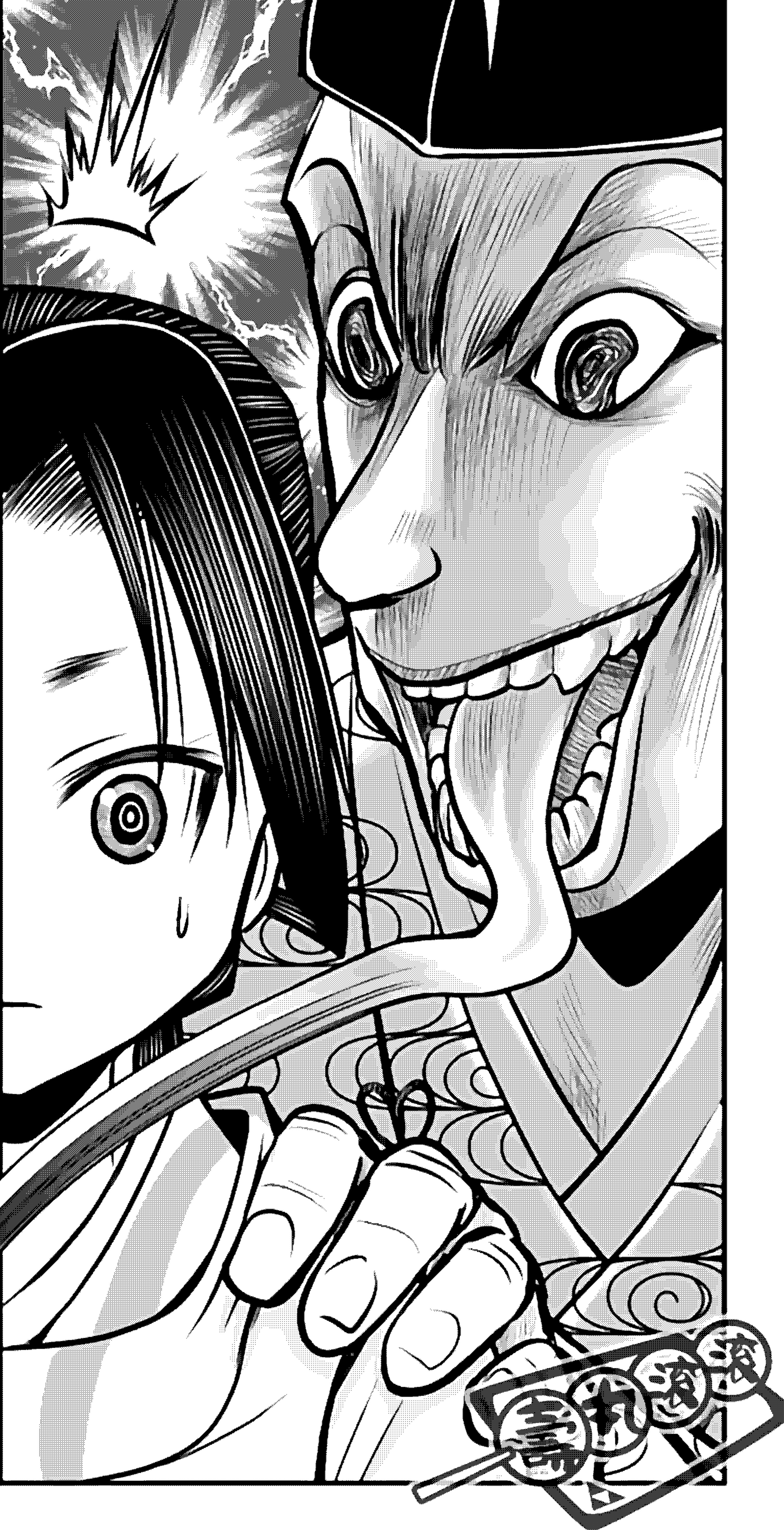
歡迎加入漢化

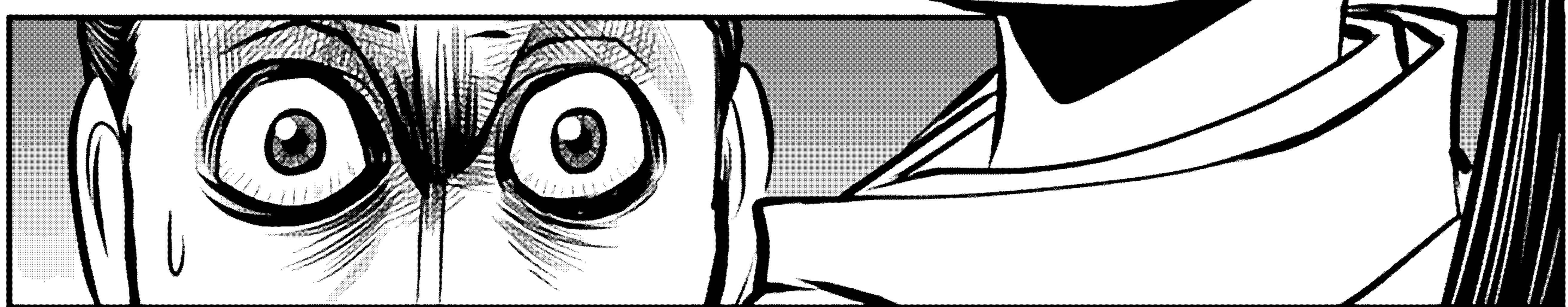
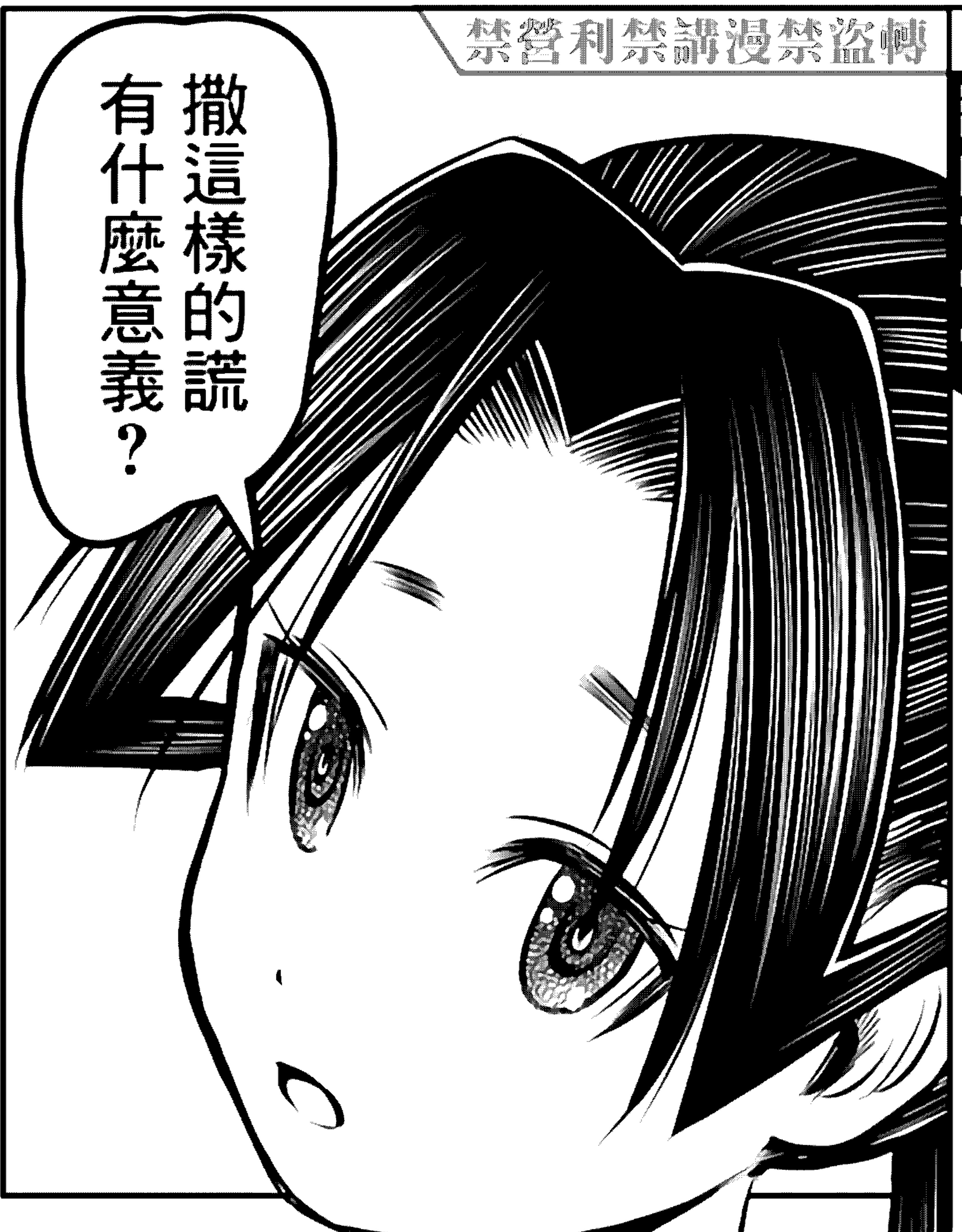
測試群：648466051

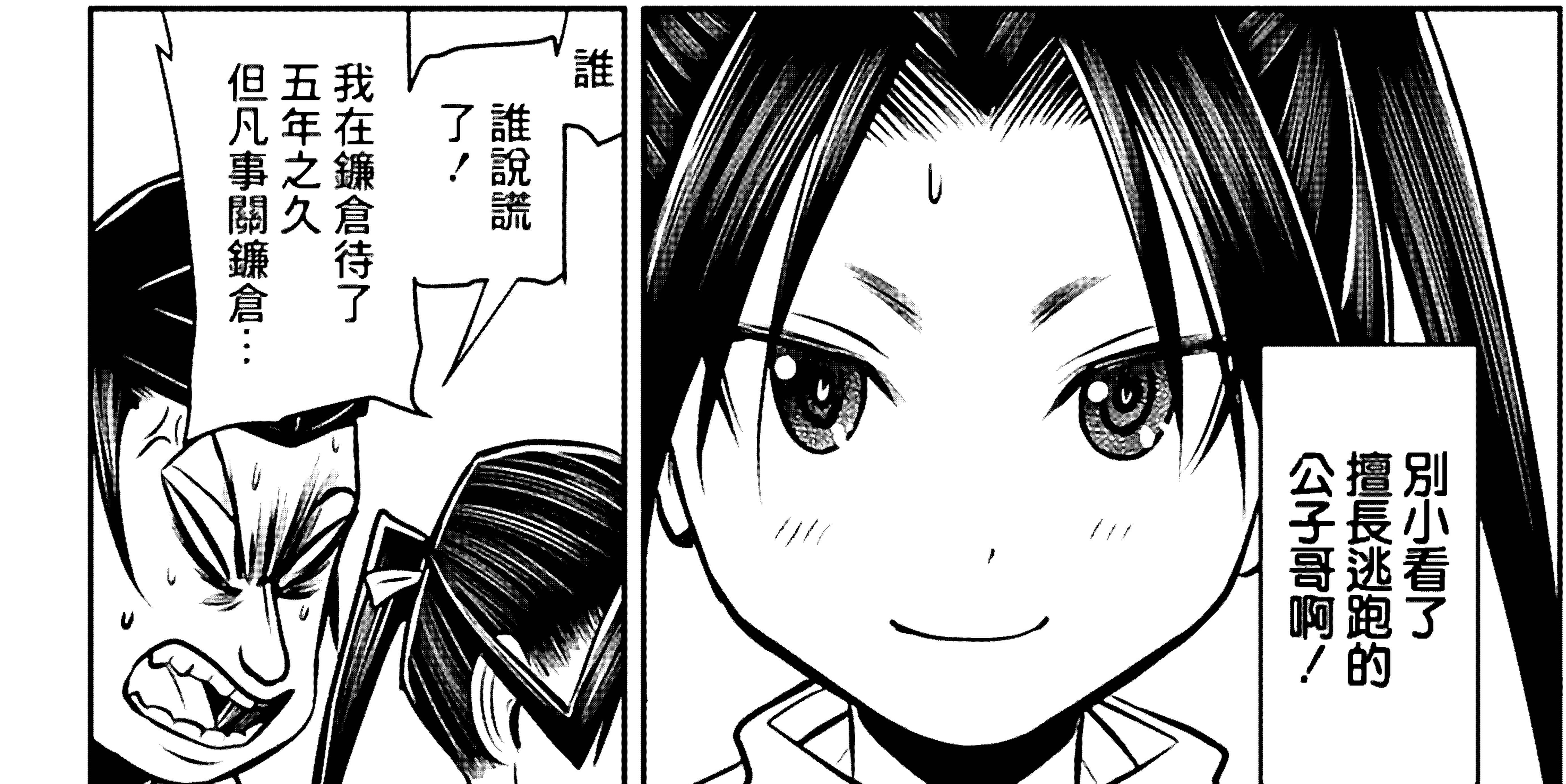












拙劣的虛張聲勢
就好比徒勞的追擊

看我邊逃
邊反擊

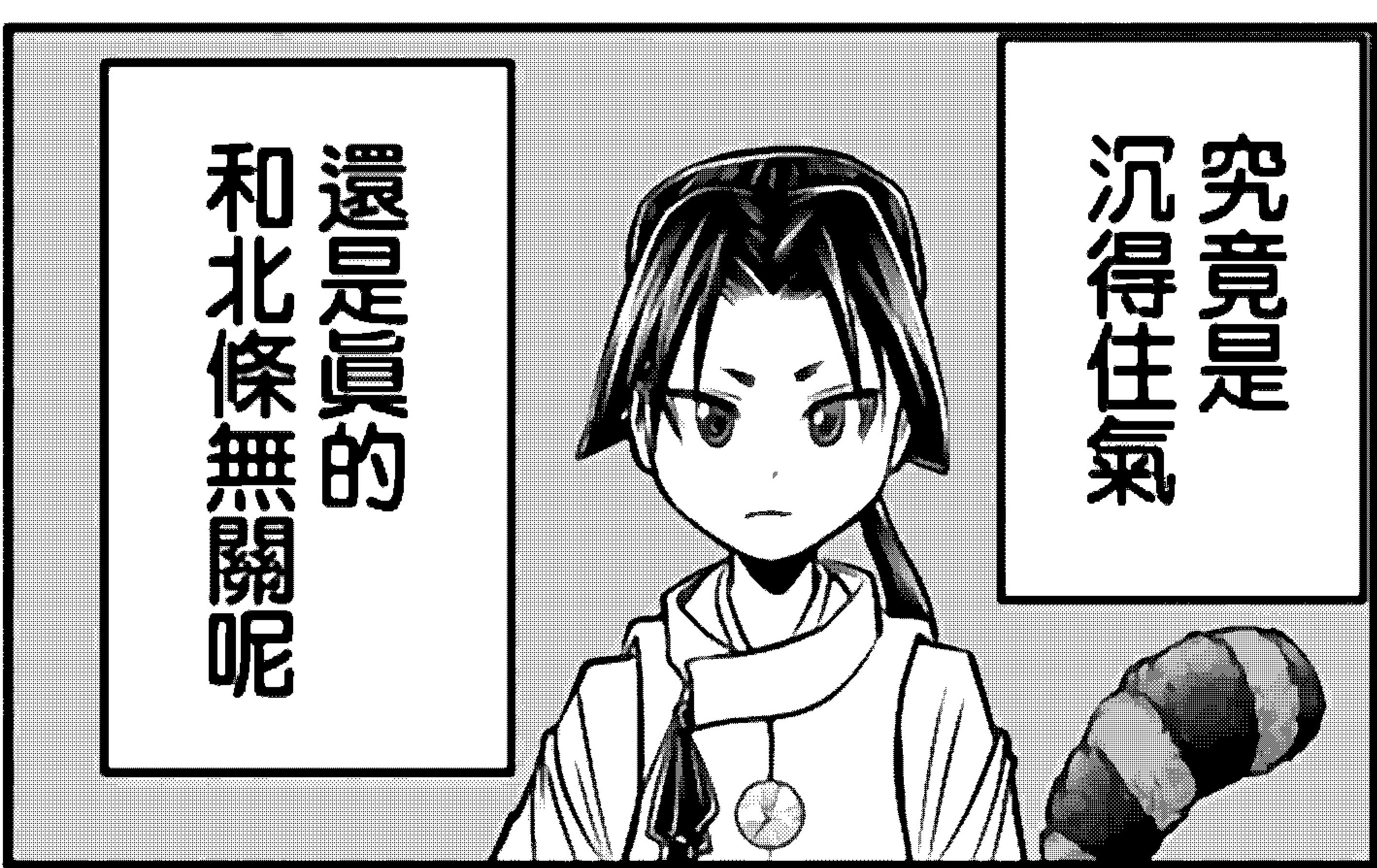
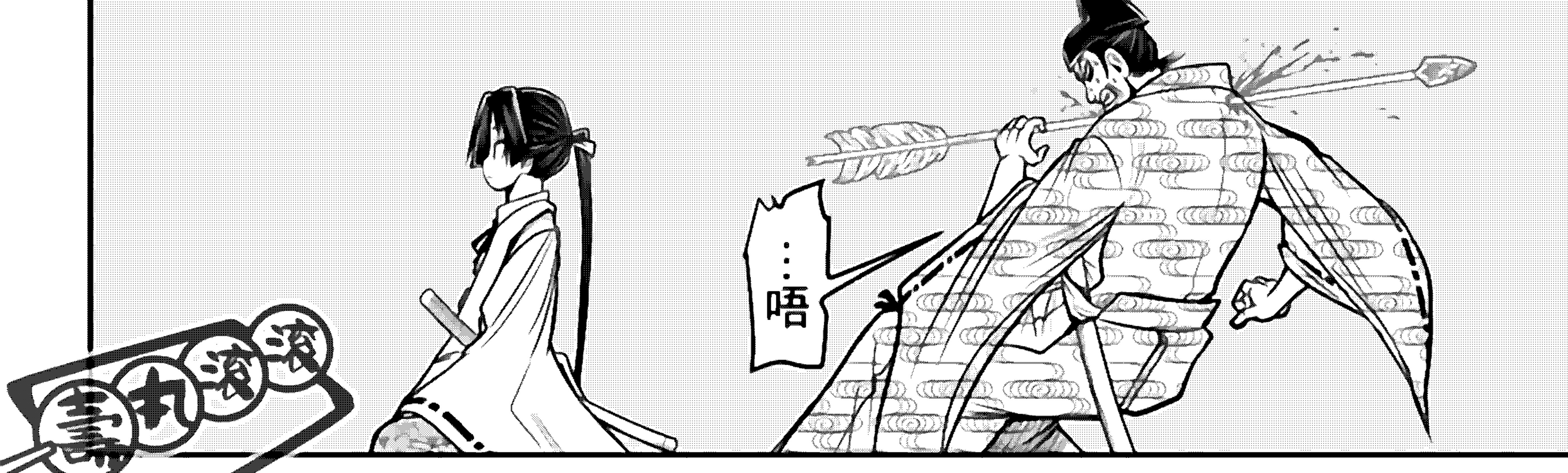


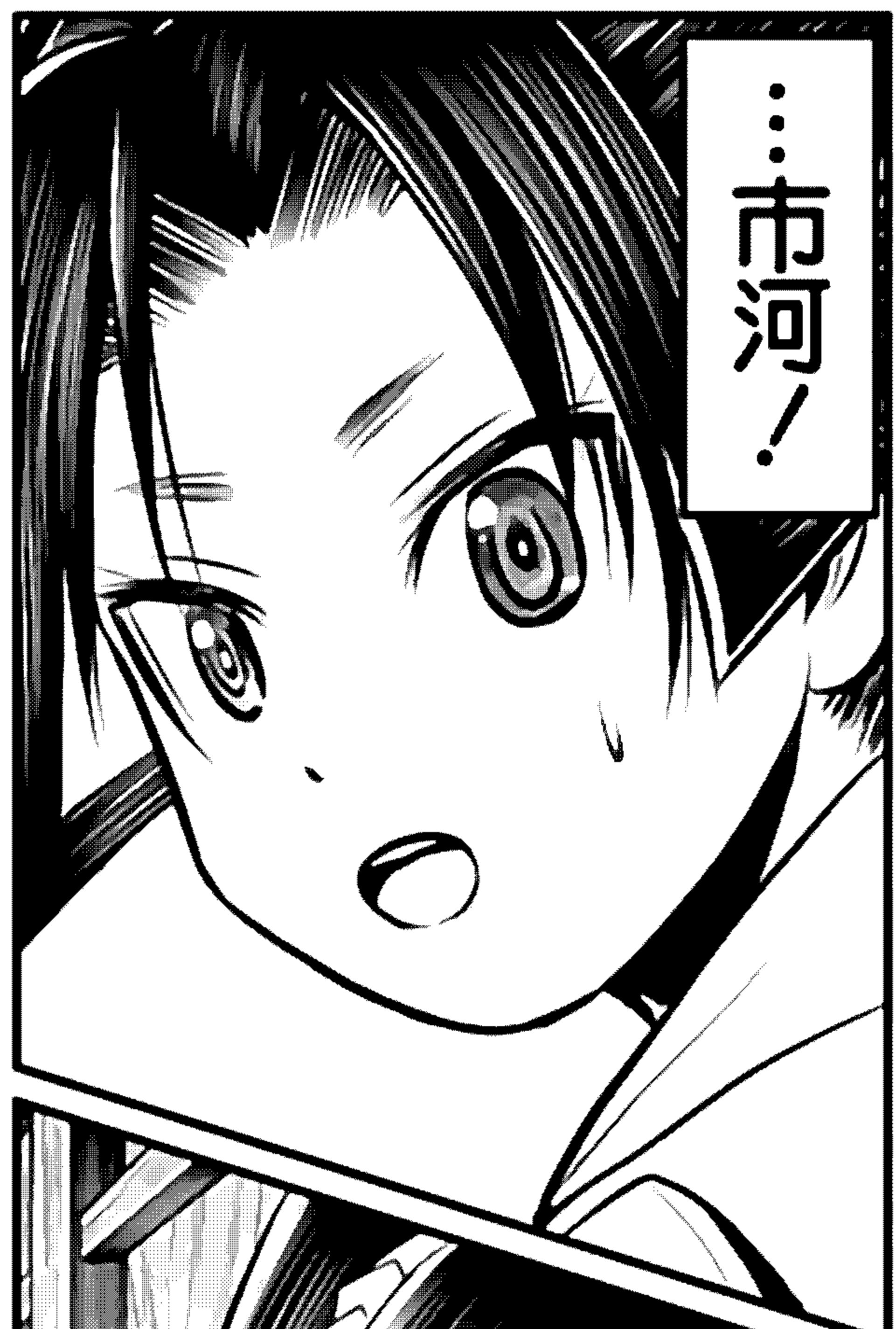
說不說謊
是您的自由



但失禮也該
有個限度
貞宗殿下

小笠原家派來
諭訪的使者
難不成是個騙子？

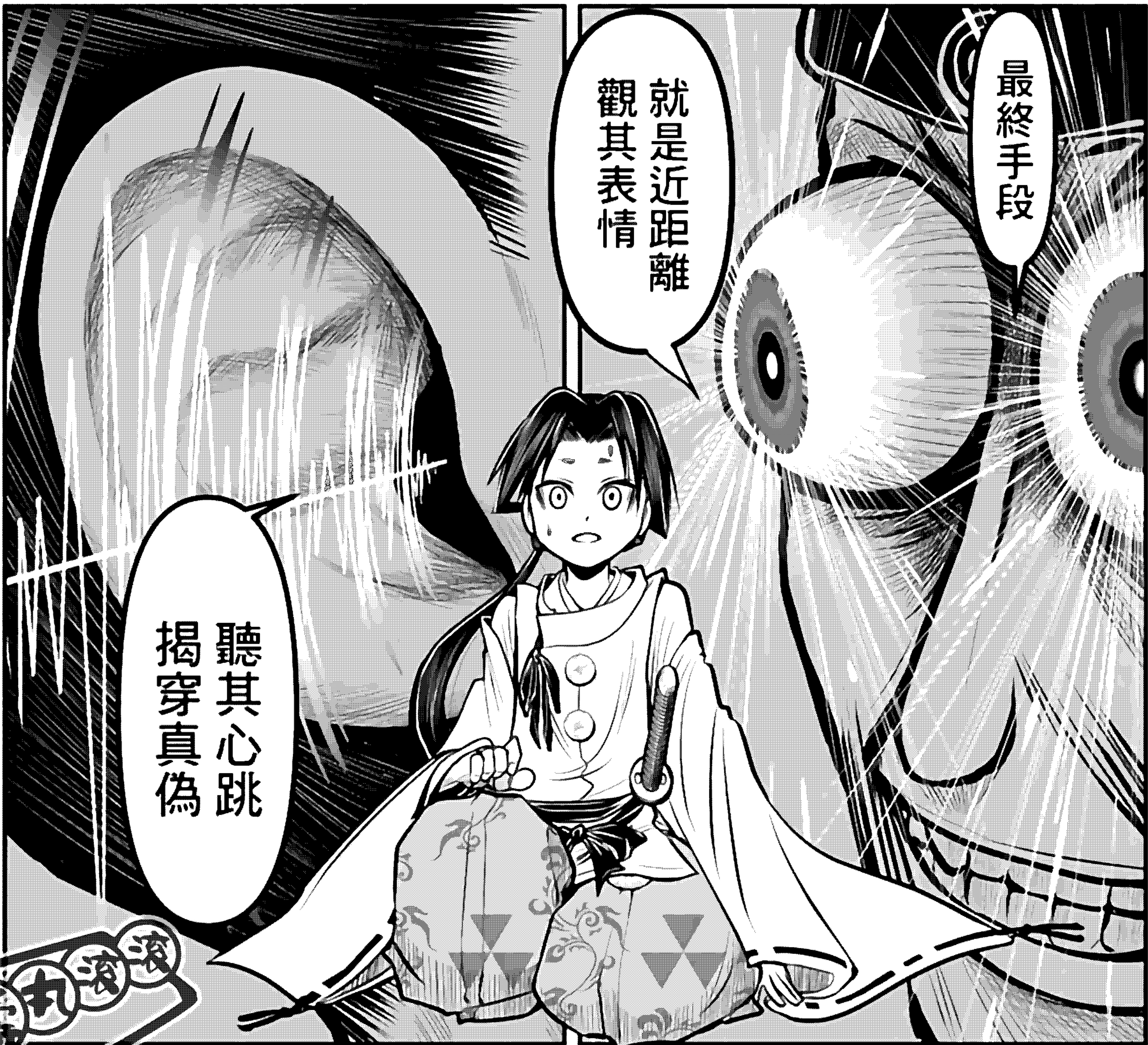




活龍莊

@







提問

你是
北條嗎？



トーンン



害我聽不清
心跳了



唔……？



トーンン

跳得真
不錯啊
小姑娘！

還同時彈奏
多種樂器
厲害啊！

來吧
小笠原眾！

擅舞之人來和
亞也子一決勝負！



解説上手若君

武士であれば敵同士でも礼儀作法を守る。武士道の源流を解説。

解説 本郷和人

1960年 亀有生まれ。歴史の専攻である東京大学史前考古学の教授。おつらうこちよいでのテレビや雑誌にも出演する。

武士の交流について



斯波孫二郎

武士のことをもっと
知りたいとは
すごい探求心ですね



これが相手に
敬意を示す
座り方ぞ

「今昔物語集」には平将門の叔父に当たる村岡五郎と箕田宛の一騎討ちの説話を見ることができます。ふたりの領地は荒川を挟んですぐ近くにあつたため、家来たちがしばしば小競り合いをしていました。そこでふたりは自分たちが一騎打ちをして決着をつけようという話をまとめ、荒川の河原にやってきました。双方の家来が見ている前で、馬に乗り弓を構え、秘術を尽くして戦つたが、勝負はつかなかつた。家来たちが拍手喝采を送る中、ふたりは駆け寄り、互いの健闘をたたえ合つた…。これが兵の道で

▼ 当時の武士は敵対勢力と
交流があつたのか?

あり、後世に武士道として発展していくのです。戦いは神聖な命のやりとりと考えられていましたから、身分が釣り合う者としか戦わない。卑怯なことはしない。敗者を辱めない。勝敗は時の運である。そして正々堂々の戦いが終わつたら、遺恨は残さない。これが武士の作法でした。だから、戦いのとき以外は、互いに礼儀を以て交流するときには積極的に共に狩りをし、神仏に詣でて、友情を育むけれども、いつたん合戦となると、命を惜しまずに戦う。そうしたメリハリのきいた生き方が、本来の武士のあり方だったのです。合戦は非情なものです。どんなに仲が良くて、義理もあり、複雑な事情もあって、敵味方に分かれることははある。だから戦場では激しく戦う代わりに、日常には恨みを残さず、一定の交わりをする。こうした道徳を高めることで、武士は自身の生活を守つていたのではないでしょうか。

↑ 武士の礼儀作法の確立に貢献した小笠原貢宗。正座には正しい所作があるので、気になる人は是非調べてみて下さい!

毒丸家家漢化

翻譯

我不做人了

卷末語

名字都是平假名的
藝人激增，分不清誰是誰。
取名「美超電」
我可能會記住TA的臉。

校對

古今合殘丘

首發微博

@混成連合會

歡迎加入漢化

順位 7 / 20

W J 2 0 2 1 N O . 4 5

安字

三十二

桐 ri

測試群

648466051

少·王濶得快

第35話

監製

三十二